

## 身近な野鳥

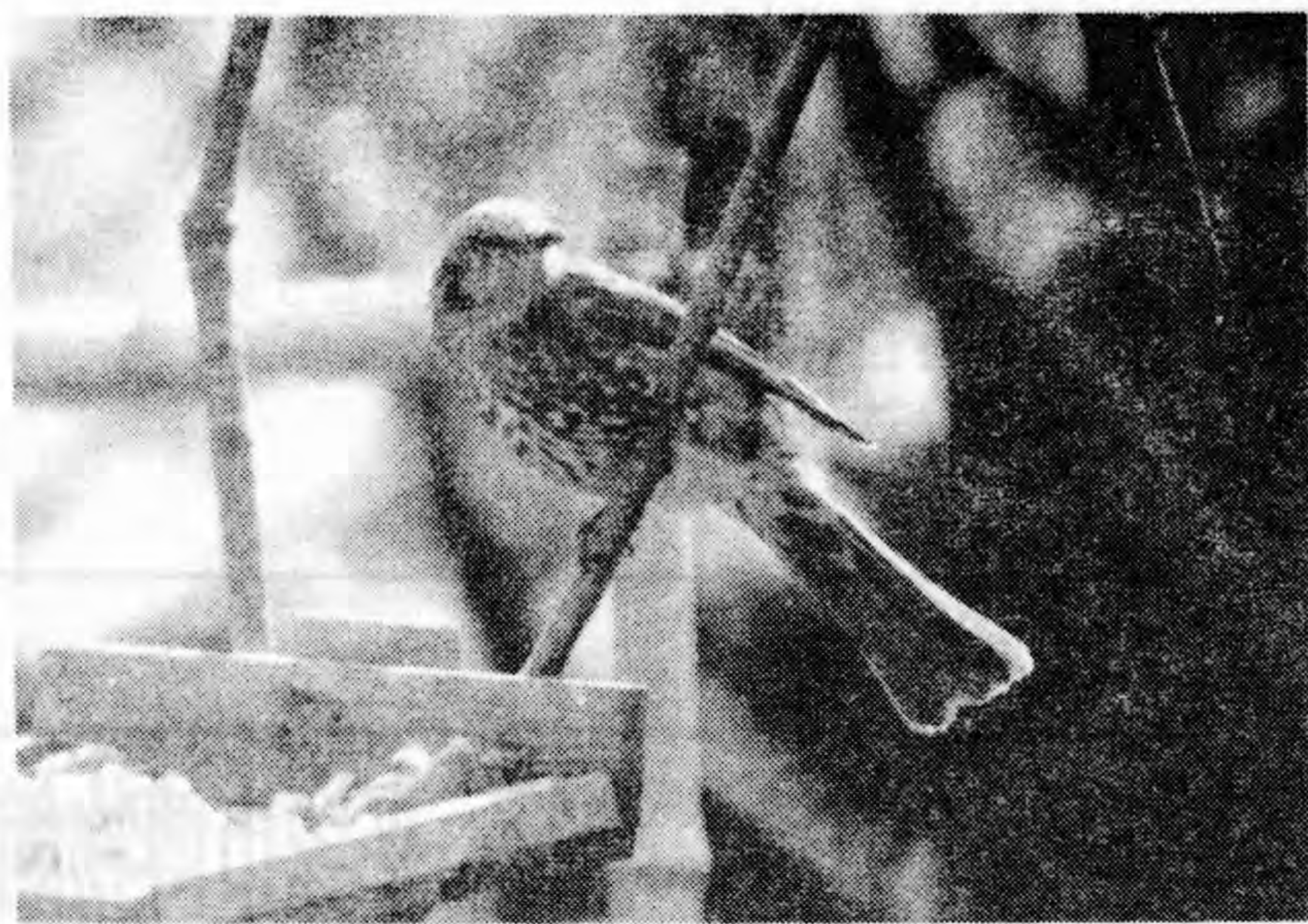
冬は野鳥の観察にもっとも適した季節です。それは、四季を通して見られる留鳥だけでなく、北国から渡ってくる冬鳥も加わって、数と種類が1年中でいちばん多くなるからです。この季節に身近な公園や庭で見られる代表的な鳥を紹介してみましょう。

### ・キジバト

山鳩とも呼ばれるハトで、翼の羽が明るい褐色に縁どられていて鱗状に見えること、首筋に青いもようがあることが特徴です。庭木や街路樹にも巣を作ることが多く、葉を落とした落葉樹では古巣がよく見つかります。キジバトは他の鳥と違って、冬にも巣作りをすることがあり、雪の中で卵を抱いているようなこともあります。

### ・ヒヨドリ

木の実が大好きな鳥で、街路樹のクロガネモチ、庭木のセンリョウ・マンリョウなどの赤い実をものすごい食欲で食べ尽くします。全体に灰色の地味な鳥ですが、よく見ると顔には茶色い模様、胸には斑点があり、シックな装いをしています。コブシなどの蕾を食べてしまったり、畑でキャベツなどをついばんで、嫌われることがあります。



庭の餌台に来たヒヨドリ(高野凱夫氏撮影)

### ・ジョウビタキ

代表的な冬鳥の一つで、春から夏はシベリアで過ごし、10月終わりに日本に渡ってきます。昨年の冬は数が非常に少なかったのですが、今年はあちこちに姿を見せているようです。鮮やかな色の雄も、やや地味な雌も翼にトレードマークの白い斑紋を持っています。冬の間、雄も雌もそれぞれが縄張りを持って過ごすので、どこでも1羽だけで見られます。

### ・ムクドリ

冬に大きな群れを作る鳥といえば、この鳥があげられます。昼間は、数十羽くらいの群れで餌を探していますが、夜は竹藪などをねぐらにして、時には数千羽にのぼる大群で過ごすのです。夕方ねぐらに向かう群れは、まるで黒雲のようです。よく川岸で水浴びをしています。その時も大勢と一緒に水に入り、豪快に水しぶきをあげています。

### ・アオジ

気をつけていないと見過ごしてしまう冬鳥です。おなかの黄色が鮮やかな鳥ですが、いつも藪の中を動き回っているので、なかなか見る機会がありません。ジツという声が、この鳥の目印です。

### ・ヒレンジャク

野鳥が好きな人たちが出現を待ちわびる冬鳥に、この鳥があります。小太りの体、ほんのり赤みのある羽色、斜めに立った冠羽、赤い尾羽の先など、なんとなくひょうきないでたちが、その人気の秘密でしょう。平塚では、3月頃毎年のように姿を見せます。ヤドリギが一番の好物なので、この鳥を見たければ、よく実のなったヤドリギのある場所を探しておくといいでしょう。